悦目抄

昭和五十一年十月、飯島重助氏の好意により、估価一万八千円という廉価にて求む。歌学大系本より、二、三の文章の少きは、むしろ本書の方が古きことを示すものならん。

村井順

慶應義塾図書館

夫和尚のかしこき事は
ひなら一切衆生をさ師道あらはす
ものとそうのひとり本ひとり
中たるとうとそうはひとの道をさとりの
をしへ心を發すもの仏をかしこ
ならとしるもの仏をかしこ父母
情をもて孝の文中に心とつかへ師道

それ人有として人ゝに愛なきはあらさるへし
何はまなひとしもなくおのつから事も人の
そのかたに力なきまれは言のまへ心の本ならし
本にもあるによりてうたしさんとゑんすれ
ありけれは歌といふ言の葉の本意様事二ことに
ところにみなし言のとうあるのをていとはしめん
すこしはつの人あらふもそくてとらんとみちし
山野にあそひもてあそひわれはつかれたる事は
とよく言のことは事はまつ人のをにたて
和歌道は性とてらしはつる事にはなかし使
よめとも言のすくにそのおあるなりすり
たゝ言のとよりみん人のまはしま道はつからはしたるも
ちゝ分あらはへたるへく一言いはぬ人もなくる事
される我となく思事はおれはもみえを
古和よもなしとよみんとてりし道と深
みちんには不万葉集よりわんしよめて三代集を撰人

[illegible]

一 [illegible]

いろはにほへとちりぬるをわかよたれつねならむ
うゐのおくやまけふこえてあさきゆめみしゑひもせす

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

かすれ也ともとかくあはれとにしてはなかなかなと
ものにはへしのたてにしてほそくたまへとすすへき
そもしにふかく書へとおもへはなくにゆへにて一
つよきをとりての書はしにあかなよきとくも
にへなれはよかくおもしれはよきむすしよきくは
よきとそもはへくいふらほにふかく書ともとも
ふとよかくよきをともぬて下にふかくすの身を
もぬあてにかぬはきをとくぬとよはれし

もきろるえ下にいぬみよき下にともぬ物し下り
かくすとよきをともぬ目にはかくぬ也

一 言ばくつきし事 拡は故実極事に候わ
非とも御判に一しかた東人目つかへ墨は大
三国にも書のぬれし書とも云するれしせらる
ぬらもつくへしくおもにたとまり下御目
えいけしつれ心得つれぬ道

一 言とも御中には言は後にけつる事あるへしはる

題はつきいえん字ともにあまたあるは二本あり
そへ上二句はいくゐくもしりかきつゝとり
そへしてわうへかし前のよらせへしえんかきすへし
えん題とゐくちへしえん題ともあはて
前よりつゝ半分さいもすかして歌と述らんの
こしとてうえん字とい喜色しくつまへ
題といふ事はゐらり有事すらたいへ書うく
ふものとまたほおかなくるかくほかはと

つれすゝみにふもらえ来る○たる一句には
ぬとえ文字といふすらえん題といふ云字つく
まおして半年改めぬ事しくあらへはおもふてへ
なうしてもしれぬるといやれ拾事言ことゝへ大
一 前いとよへんやつをいにそうけむ合有ともとくれ
ほとこう詞あつくはうちをきよまてはらと
ものはひとさつすとはつうみなかに詞
あひもさ事うつ心にとゞろへしかはにふつ

らにもよそふはいまだ千とせのみどりふかうきて
ねはたいゆあらく舟ときこえかつらく
それしたるをもにはるなにはちくへかへくん
もに宗祇もいはくすまたらとありたるぬき
わかあら詞と成はいもおほならめよしに
といひあへりてよる人はらちおかしろはいゆるはし
すならん今是とふかに宗祇もいはくすなりけり
三品心とあらふんまるへはさるしとも

是は山まゐらんそへたるあなたはゝ
いかなるかなゝやまさくこゝろもあひさふ
下句にはふ事といひのへさるかくそ宗祇
此歌をみあらく古めしくいひ出たるとき
もるか父をしやまちもふ事といひあへり
あるいは秀句よかたちもかへ事よろん侍り
このまして人侍りものなり
一　私云此歌は二首なからとつらぬいたる事侍る云

もしからとハ花風痛ハやくあやまれる故なるれ
といふことの見しましきれしゆゑをあやまり
ぬる文字いかにもかわる事になりぬへしく
なるべく候ふ事に去りとくるゝ事もあらく
よしなくはなりくるしく
まかしみすへとものとつまさ詞をみゆてあと
あらへし古郷花鳥とてあまた事いかゞなし
とりなとく様ハおほくいろはと云か有人露く
去りもにはいかなる首やとにいくまし
いて者ひそめしとてもすべからく様にあ
らはする人有人にも文字の指南之かゝける古記
明古記国の名所なよみつくし命すてあかさん
とくしいやりな歌のためにも人の詞も見し
もとものもかなあかんかかゝかまたらく
みてあとなりものもうへあかる泥とふしかく
さるかれいしとへしといふ是それと古今集の附之

ちかき代々の哥をえらはれたるをもいにしへ哥なり
ぬ哥といふべし風情ものゝ風情とあるへし
頭月とする事ハいかにもしられたる
萬葉集よりこのかた三代勅撰三十六人の家集なと
其外中古よりいまの哥調ともに深く心を
まなふへし

一 古哥第一二句とハ今の哥第二三句なり此
又中の第二の句と第一二句よりおしあつめ
ありそれにつきて上下をつゞけて作る事もあり又
あひつゞけ例の事ゆゑ又詩人の哥などゝ申と
しても道の哥にあらず古の哥をとりて変の
うたよみのしらすとハ詩題目ありて
ことなるかなしき事なしとも其外の哥とよめり
其哥とハ其哥をとりてたゞ其の心
とくれの心をもはしくいふなり三十一文字なれ
五字と七字をつゝけ五言詩と七言に作りたるごとく

七夕の日、ちかのつぼにて、ちはせやまと二つの琴を弾
きつくしぬ。されど、古のてにはあらねど、
いとうるはしくもあるかな。
しらちかの事、大かた、世の中
すてたるものにて、ものいとあはれなる
ものなれば、ものしるべくもあらず。
大和言葉、中国の人、
心得べきのちなりとぞ、
思ふ。

第六段、ちかの世界、ものあり事
なれば、ものしるべくもあらず。
ものしるべくもあらず。
ものしるべくもあらず。
みなもと、又楽府、詩詠の中に、
恒ものしるべくもあらず。

一

題しらず　紀貫之

ものしるべくもあらず。
ものしるべくもあらず。
ものしるべくもあらず。

よしへは心をかくるよハ一せとあらたに
よみてもわれらいふしことかたりて とき
あるもくけてまろくこのさま御通の古今
かられて諸れのうちいはしるへはわす
右のとし文はちさんへおもしろくにさむは
おしへはかなといふ天象地儀随類雑形ありと頌
かなしへはかたちも哥とよみてすには
ことしへはあとさる先生はしかれともにあれ野山それ

われらへ哭とおもふへハ乱源のありて文様こと頌もて
統とよあらとよるるへしるしハゆへく文字ゆかしそ
あまハ仮名へいる御いの道のあるかの頌も和歌
又此文はやの字文字唐への道の字もいふたる小
人よしまるれにはもとの字すゆるしてこれと
よしへハ文字といふへく後ほかなり由ゆゑり
篆隷楷のとまきの頌すへて筆をもあらはしにす
念のうへしあるのはすら行をもはしくきたち

一

深雪降り積もるとも
[illegible]

いまかうのことをいへくとも人たるいふやし
ろくしとて悪逆の類よりも人事なるも
花よりよろしくさかるは花は散すしてよろしき事
おほしめされとも道とても御かんにかぬ事つ
れは命なかきこのすゝめ大事にくしてもとのにくきとも
あるは来しかたとく行末おもひ
そのうつ類ものにはなかにしたま事もなきなし
又長夜の歌とおもしろき事とこそ類男子の徳より

よきて御心をうけいにて先生を
よろしくなりにけり頭とて又歌子類
人事とも見まし人ことの歌ならはと二十一字
よみ出さへし組類よらは言もまた是し
しる事もまたよろしく思ひまするへし

一春という類にて霞をしてみる日にてハ
人事は風をあらめていきて類の外にて梅を
見立て百首なる所へのい類の霞をおく

人まろとあかひとの歌は霞のうちに花をみるかことく
らんとうつくしきはいつれも錦をきたるかことくなれ
ぬへき事なれは傳来りすくなきまことにたち侍る文
秘説なき一首なりとやすらかにつらぬきてはわかる
侍りける大かたの歌よみのおほくは人のたまし
らくもしりすくなきとなかにたくみにかなしきの
歌の風体もおもひそめてはうたの姿をめでたき
これうち開きたりてまことにもありけれ
うつものかたりにもあはれにもいひなしたる心にあ
くもれは文字をかへてはすくなくおもひしらぬ
ことはの歌なる事はすくなきにてはかなくたゞよひ
末代にもおもはれ（は）きこえのいひしをすゑの世の貴
之のたはやすくもしられぬ心ありけるを歌のすゑの
なとすへにやつたへ侍る許
古今雑下読人不知
風ふけはおきつ白浪たつた山よはにや君かひとりこゆらん
これはむかしの歌の心のすかたを貫之の新撰髄脳にあり

一

一

[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

一

[illegible]

一

[illegible]

下様へハ文のちと御はん仏と二まいはちすて
十月まうしやして寺しはあまりやすく候はヾも
さしはしいると○とするまゝよきより見はいく
くるなりおきはてるかい候へ

一 前ちとハ職野よみ候へく極中相極ハ
ゑちとしてやとするへ主いろハ猿ましかり候はも
かうかくせぬさ無御申とのれへ何よりそうて
ふくめせとけとよみ候ふ前の空におゝ松さも

猿むしかり候とよみちと候へるむむしとも
そあまりやう御まへ人のやしとよるゑ申いれぬへ
ちしの者へ梵ねとて大事のわい勞し申さん
全聖まいすゑハ弟子なとして邪ハやしかりつゝ
出る兄事よおしの弟子なちそもおなりさうらん
弟子兄へとハいゆるすへく候畢竟てやとすくし

下様へ

一 前候やうは二て申候よふ宮とうとす三首二首

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すこしもそこなはんかのため

一　又えんぎをとりかへるまたはこれ

すなはちこれをとりかへるまたは又

ちがへるとかの事にこのもしかるべき

はなはだわいなる物なりとそこの

こらせたまへ

御本書にあれども当流

御ちえをもつて御ぞんじたるかまた

をかたがたのまたはこれ

つゝしみおそれおそれ謹ておもふ事を

かりすぎのつもりにおもはれあるべし

えんぎをとりかへるまたはこれ

をとりかへるとのまいひきりく

ふしをとりすてるまたはこれ

をとりかへるなどなりけ

ばなにもかはりもしくの

もとをとりてこれをの

[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

一

[illegible]

一

[illegible]

一　あとけなきものとなりていかさまこと
谷ゝにあれはこゝろさしてあて谷
かゝることゝしつゝたゝかいもの形見
いとゝ思ひつゝへたるこゝろさしてあり
あてゝいとものもとしたるこゝろ
ちゝたるこゝろなりあとけなき
ふるもちゝしゝ

一　ものとあれはなきふるとてはかり

御あるゝ年のゝつゝよりひさかれあるも
とゝとゝ祈ておもふ事ゝ思ひたるもあひくいさあ
つくるもおもひたるもあれとやとあるも
松ゝ人ゝいひたるゝきゝ思ひ
もしこゝいめるもひとしなり

一　御ゝあるゝとゝいふゝ六十一年ゝ
今一年とゝ思ひすゝんとゝ
よるとゝもなりなるこゝろゝ

撰政一条
摂政殿

一

一

一

[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同清人云

[illegible]

れ

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

日本伝通俗

[illegible]

一 通俗赤穂義士伝の[illegible]

[illegible]

の 物語[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

いひ[illegible]

や [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

といひ[illegible]

み [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一　病とはなる人に事

一　家樹初物二三四月畑四分二

出品定　六月　高麗物四月

初二三四とはなるものにあり　きるもの

きるものはきるものにあり

一　二四月とはなる人の世話をする人

一　五六月は七月六七とはなる

はなるもの

一　あるいは月に月に月に月に

はなるもの

一八病ハ思ハ私思稲蝶清水花猫花枝中地後
一月ハ[illegible]
なまの[illegible]
[illegible]
一私恩ハ[illegible]
[illegible]
一稲蝶ハ初ハ[illegible]
八字同じ

一法華ハ[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 中絶 なかつぎ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

四病ハ病わけ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛延第十二年辛未流行の合せ吹方[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]師通[illegible]少[illegible]殿[illegible]
三十一字[illegible]殿[illegible]
字[illegible]殿[illegible]殿[illegible]
[illegible]曰三十一字[illegible]初[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]殿[illegible]
[illegible]初[illegible]
[illegible]
[illegible]殿[illegible]
[illegible]殿[illegible]
[illegible]殿[illegible]
[illegible]殿[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かのちに茅ヶ崎のこと
きはつきたるとあり
これと七月廿六日の
うらとたがひ
まことのさとうるもの
さしたるの七月とあり
さうさうたがひ
一 県下のいろのあり例合
分一石なること
わるのはなしたるの
さしまの七月とあり
いとかの稲荷のこと
さしまの七月
七月廿四日
こりあり
一 おくれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 又初一字[illegible]

一ら

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとい[illegible]ほほへみとうと
[illegible]ぬぬるるをと思かすう
よるまたゐ[illegible]つきつねの[illegible]
ららししうかうなるのよ[illegible]くそ
やそまるけ[illegible]こんこ[illegible]て
めのめさきさきゆゆめすめみんを
ををひひもをせすす
[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

一 大武三位殿[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
一宮とゝのへ奉る神ぬの事ふあるに
[illegible]
集の事ふ入たるを[illegible]たゝしられを
[illegible]ゝ後一条院春日行幸
上東門院へ
その[illegible]春日[illegible]
上東門院
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

業平の歌十

東にあはんと思ふ人を恋ひて

元方の中将の娘に通ひてゐたりけるを

ちとせをへてあるべきものを

しらなくに

一

古の人の言ひけるは

さわがれもいとはるるかな古の人のとくらん

人もいかなる人か有ける

中将の家に有ける人を

人をとくとてもとくとも有

何とてか情をかけ

もらしてあとをいとはるるかな

なにとてかとはるるかな

ことあるべし

昔家物がたりとかやもちぬ

とかやとかたり給ひ物語とかや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上ゟ仰付られ
一
とに相意とさ[illegible]
那[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
事も侍り。加賀殿女房人の合に永盛
は侍りし。

天の代まの行ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

もとこれをいかにしべし

一 いろいろの祈とてさまざまの修中てい
ふ平泳れも修なれ[illegible]
うつせ也 きれいつ[illegible]
かとへ公 あるれ[illegible]
し[illegible]

しかるにこれ[illegible]
なれの也 はなはだ[illegible]

わとは事云[illegible]
云[illegible]
但例と仲平云いせ寛平法皇[illegible]
いろいろの[illegible]

一 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

一　服　[illegible]

一　耳　[illegible]

一　鼻　[illegible]

一　口　[illegible]

一　分　[illegible]

一　意　[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

刑罰をくわへられ
ものとなり
一又人は一度過あれ
ども
[illegible]
者ものの[illegible]一躰いつたいなる
人をいたすべきなり
いつたいなる
[illegible]
[illegible]
[illegible]

刑部卿殿へ参ひらけるを
つくらせ給ふ
一又人は一度過あれ
とくおひたちて
者なれども一騎なれ
人をいたうとられ
いつくしくふるまひ
申のとおもひ

[illegible]

一 大方[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 又のもうしはかりなき事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一野宮[illegible]合判[illegible]源頼[illegible]女房[illegible]

[illegible]

[illegible]

花色[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

業とし世々事をつたへ家を継命
ゝ徒大和書ハ門弟云
巻末ハ心蔵院光譽法師撰述
英伴蒐集
とあるをよくよくまもりて見
ていとゝいとゝ心をつくし
英伴の事ハ
らるゝ人ハ師資ハ

ましく侍れ世ハ
わるくすゝめ
井門公四伝ハ
人々ハ
ちかくつさ
ちかやしなる
世ハ
十徒ハ
別て

一大中臣能宣の父頼基すかたのいらつめ
をもこの人道雄部卿と申ける日ごろ
しにおくれまちてなとり相基とひく
云いつくしたりける
あしたこそ秋はきなんとおもひしを
ちりそめしより秋はかなしき
ちりてはかなきものとおもひしを
ちるはかなさはまさりけり
ちるはかなさはまさりけり
ちるはかなさはまさりけり

[illegible]
はるばるに山家秋月といふことあり
[illegible]
殿上人あつまりて月の
やうをこそ仰られけれ家
御馬をはやめて通過給ふ山家
秋月といふことを
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二十七之[illegible]仏[illegible]三十一字を[illegible]

つ[illegible]法性[illegible]

おもひ[illegible]

の心[illegible]

[illegible]百のあ[illegible]

敬ひ[illegible]

事心の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]一首一そくと[illegible]
三十七そくに仏[illegible]三十一字と[illegible]
つるもの[illegible]
おもわれ[illegible]
のこもあ[illegible]
[illegible]
[illegible]

大宮右大臣俊家公

左衛門佐基俊　十判

御遊ゝ抄ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

この御書いかなる御心ざしの
御ことにて候ぞと
子細をば
ものしてはべりけれども
ことに後世をたすけ
給ひ候ぬべし
のこりすくなく
候へば
妙法
此御書は御法華経
わたらせ給へ
たすけ給へ
南無
南無
南無

[illegible]
[illegible]
[illegible]

屠蘇散丹波兵庫頭九服元忠八年
と表れ出書記

御門院記 嵐

よの書第代相傳ふ極書のうしに
人よりそそのきさ沢ものとは
りてとなるにはあるにみれて
わいてのてるをくをさうひとら
あるしくをこ一人のおいゆうは

しきるり

文和

保元六年十四月六日 前郷津師信憲卿

元試